

ひょうか たいへん みさだ
評価するだけでも大変なのに、ネットからのコピペかどうかを見定めるの
しなん わざ ちが あんい い せんせい
は至難の業に違いない。安易に「よくできました」と言えない先生たちも
そうとうおお だいがくきょうじゅ はっけん こうあん
相当多いらしく、ある大学教授がついに“コピペ発見ソフト”を考案し
がくせい ろんぶん じょう ぶんしょう か うつ
た。学生のレポートや論文が、ネット上の文章から書き写したものでど
うかをチェックするためのものという。デジタル化された文をこのソフトに
かけると、ネット上を走り回ってコピペチェックを行い、全文丸写しか
ぶぶん わりあい はんてい
部分コピペか、その割合90パーセントなどと判定してくれる。これさえあ
れば、チェックの手間が大いに省ける。しかし、提出された文がコピペと
はんてい ばあい つぎ せんせい せいと あつか ため
判定された場合、次に先生たちはその生徒をどう扱うかで、また試され
ることになる。

さき せいと かわ はっけん う
その先は、いうまでもなく、生徒たちの側で「コピペ発見ソフトを打ち
やぶ う あら はじ ちが
破る」サイトが生まれ、新たなイタチごっこが始まるに違いない。

大新書局『日本語能力試験 N2 快速掌握・読解』より